

令和5年度吹田市地域自立支援協議会 千里山・佐井寺地域会議のまとめ

日時 令和6年（2024年）2月20日（火）
14時から16時（13時45分受付開始）
場所 千里山コミュニティセンター多目的ホール
参加者 40名（申込時47名）

内容

- 挨拶 前回地域会議について
吹田市千里山・佐井寺障がい者相談支援センター
- 講演「避難判断と在宅避難・備えについて」
吹田市総務部 危機管理室
吹田市福祉部 福祉総務室
- 報告 保健所のとりくみ（災害171訓練）
吹田市健康医療部 地域保健課 難病グループ
- みんなでトーク
「自分の備え」「在宅避難障がい者をひとりぼっちにしないために地域でできそうなこと」



みんなでトークのまとめ

7グループにわかれて話し合いました

自助

自助の中心的な話題は備蓄についてでした。

次に災害に合う前に調べておくことを考えておられる方や、訓練や練習の必要を

上げてくださる方もいました。

備えて安心備蓄（備蓄品、防災リュックは定期的に点検しましょう）

★ローリングストックのすすめ

水・お茶・食料（普段食べているものを多めにストック・長持ちするものをストック）、カップラーメン、レトルト食品、甘いお菓子、あたたまるもの

携帯ラジオ・ガラケー・灯油・ストーブ・ガスボンベ

懐中電灯・携帯トイレ

薬のストック（1週間分では足りない）、吸引器・蓄電池

寝室に笛を用意しておく（周囲に所在をしらせるため）カスターネット、懐中電灯、着古した服

★外出時…リュックの中に予備充電器、薬を準備

★職場で…蓄電池を所持。必要なものを（電子カルテ）を紙データで印刷しておく

★車の中に…おむつ、簡易ハンモックなどを準備

自助のための情報

電動車椅子での移動、段差を超えられるのは5cmくらいまで

災害時の交通手段やルートの確認

地域の状況がわからない。地域とつながることが自助につながる

1月の震災で身内が亡くなった。隣近所のつきあいが大切

予備電池は高くても手がなかなか出ない（要件を満たせば日常生活用具の給付対象）

100円均一のお店でも買える防災グッズがある

自助のための行動・訓練

運動不足の解消。マンションの上り下りで、体力を身につけておく

一人キャンプを趣味にする

職場でBCP計画を作っている。事前の備えが減災につながる

災害時のトイレは実際に使ってみる方が良い 簡易トイレの作り方、取り入れてやっていきたい

避難場所を考えている

共助

共助では、障がいのある方をひとぼっちにしないために、顔の見える関係ってどうすればいいのか「地域でのつながり」に関することが一番の話題となりました。その他、情報提供や訓練や支援の在り方などのアイデアが出されました。

障がい者はどこにいるのか？顔の見える関係は？

むずかしいと感じるところ

千二地域では自治会に入っていない方も多し。地域のつながりは「都会の課題」としてもある。学校卒業後から64歳支援の手からこぼれる。70歳から見守り訪問がある。自分から発信してくれる人はいいがそうでない場合も。対象の人をどう把握するのかわからない。障がいのある人にどう声をかけたらいいか。オープンにしたい人が結構いる。近所でどこまで知っているか。知らない人にあいさつなくて良い時代。9割以上が高齢者で、顔は見えてきている。障害者との接点が少ない。つながりがある人は助けられるがなかなか難しいのが現状

こんな風にしてみたら

個々で持っているつながりで対応することもある。自助にもつながる。人と関わりを続けることが大切。日ごろから隣人とコミュニケーションを取っておく。能登では、地元のつながりでみんなで声掛けをして避難していた。避難所など集団の場に「身動きとれない人」「動けない人」「なじめない人」にどう関わるか、どう機関と地域とつながるか、詰めていくことが大切になってくるのではないかな。民生委員は名簿を預かるけれど、障がい者の方はどこにどういった人がいるかわからないが、何かできることがあればなんとかしたい。地域の交流やつながりが大切。地域でお互いを知り合えるイベントがあればいいのでは。普段から関係をつくるのが大切、顔の見える関係をつくっていく。誰かが知っていたら、本人がしなくても繋がりをつくれるように。まずは声をかけることから。自治会単位で知っていく方法があれば。いろいろな役割の人がそれぞれ担う。できることは限られるが、向こう3軒両隣で仲良くなれると良い。お手伝いしたいと思っている人はいるのでは。敬老で訪問するとき知れることがあるので良い機会だと思う。



地域の情報・情報共有

外出そのものが難しい人がいることを地域で知っていく。地域・関大で防災イベントがあった。吹田市の震度はどこで測るか？地震計は南消防署にある。北部庁舎にも設置されるかもしれない。難病グループでは最重度の難病患者のサポート。五月が丘地域では、平時からLINEの情報伝達が発展している。災害時は応急薬が優先される。持病の薬は備蓄が不十分。症状不安定な場合はストックしている薬が合わなくなることもある。お薬手帳を持って避難。薬の拠点はあっても分配がむずかしく自助に頼っている。ハンカチを玄関外に示すなど安否確認ができるような仕組みがあればよい。府営住宅では「避難したよ」のマグネットシートのようなものをドアに貼ることになっている。マンションで無事カードをつくっている。

具体的にこんなアイデア

避難訓練について

自治会での防災訓練、自治会でしてもらえる意味は大きい。

災害弱者の方の参加の促し、坂が多い、参加しやすくするために

顔の見える関係はつれていない。一緒に防災訓練ができないか。介護（障がい・高齢）での体験をしたい。避難所の状況（特にトイレ・バリアフリー情報）を知りたい。学校は特に難しいのではないか。事業所の行事を地域に解放できれば、当事者のことを知ってもらえるかもしれない。

地域のとりくみへの参加を促していく

具体的な支援の視点

精神障がい者は、避難所に行くのもしんどいので、支援者から連絡をして安否確認

利用者宅のマップを持っておく

地域の人と顔の見える関係が大事、スマホで（吹田市内の知り合いなど）支援を求めることが大切

当事者は地域の誰に相談すればよいかわからない。

訪問にしている人は「もう逃げない（避難しない）」と言っている。避難計画を書けない人がいるので必要な箇所を書いて渡してあげてほしい。

避難できているか位置情報（GPS）がわかるような制度、災害時に発展させられないか。

普段からの接点が大切。小さめの規模で気軽な雰囲気ですら座談会などをできたらよい。

避難所が、坂道で避難所に行きにくい。もう少しいろんなところがあれば（寺社、教会なども）

テーマ「インクルーシブ防災 どんな風に備える？障がい等がある人の防災」

吹田市地域自立支援協議会地域会議（千里山・佐井寺地域）に参加いただき、ありがとうございました。

講演いただいた「吹田市の防災」や「災害時要援護者避難支援」の内容、「難病患者へ災害時避難対策」を踏まえ、グループに分かれ、みんなでトークを行いました。

限られた時間の中で、貴重な話し合いができましたことお礼申し上げます。

なかなか何から始めていいかと思う障がいがある人の防災ですが、前回は、障がい者の状況を知っていただく機会となり、今回は、具体的な備えとして「要援護者個別避難計画」や「災害171訓練」等具体的なとりくみを知る機会となりました。

これらのとりくみは障がい当事者・家族の方と身近な支援者が一緒に考えはじめていますが、発災時に本人に合った連絡方法や周囲への安否の知らせ方があると、在宅避難をしている障がい者の存在を地域で知ることができるというお話は、障がい者をひとりぼっちにしないための具体的な対策の一つになると感じました。

普段していないことは災害時も難しいということで、練習する、避難行動してみるの大切さも確認されました。気軽に話ができる機会や挨拶等の関わり等を継続しながら、地域で顔の見える関係ができるといいねといったご意見やアンケートでもたくさんのアイデアをいただきました。今後の地域会議で生かしていきたいと思います。

アンケートでいただいた質問に以下のとおり回答させていただきます。

アンケートの質問についての回答 「個別避難計画は誰が保管しておくのですか？」

* 災害時要援護者名簿に登録がある方の保管先です。①原本は自宅 ②吹田市福祉総務室（コピーを提出してください） ③支援者・利用している福祉サービス事業所等（個別避難計画作成支援者を含む）④外部提供してよい場合は地域支援組織

* 災害時要援護者名簿に登録されていない方は、①と③です。吹田市での保管はありません。

最後になりましたが、受付時間の会場ドア開扉に問題があり、入場の際し、たいへんご迷惑をおかけしました。以後気を付けてまいります。今後ともよろしくご意見申し上げます。

1. 回答者の所属

当事者 (7.7%)	民生・児童委員、福祉委員 (30.8%)	サービス提供事業所 (30.7%)
医療機関 (3.8%)	地域包括 (7.7%) 社協 (3.8%)	行政 (15.3%)

2. 講演と報告について

よくわかった (100%) よくわかったが時間が短かった (1件)

3. 講義内容について、もう少し知りたかったことや気づき・感想があればご記入ください

・災害時のために薬のストックを持つことも大事、と、今回も以前の地域会議の防災学習でも聞きましたが、その意識のない医療機関が多く、私の複数通院している病院ではほとんどが早めに受診すると逆算されてちょうど薬分しか処方してもらえません。病院にもその意識を持ってもらえたらと思うので、病院、医者への防災と薬について伝えていってもらえるものがあればと思います。

- ・障がい事業所の方の具体的なお話がもう少し聞きたかったです
- ・BCP作成について
- ・災害伝言ダイヤル171訓練があることを知った。1回やってみたいなーと思いました。
- ・個別避難計画を作る事で改めて意識できるので必要だと思います。
- ・個別避難計画があるとはじめて知りました。昼間と夜では内容も変わるのかなと感じました。
- ・災害の話は、何を聞いても何度聞いても参考になる。
- ・再度、災害の備えについて確認できた。
- ・具体的な行動をするために一人ではなく声をあげていく
- ・災害伝言ダイヤルについて周りに練習してもらうために自身がまず一度やってみないといけないと思った。
- ・机上では限界があり、実際に災害が起こった時、支援者としてどう動けるか、考えて行きたい。
- ・とてもわかりやすかったです。
- ・このような機会があればよい
- ・個別避難計画は誰が保管しておくものですか？
- ・保健所が災害伝言ダイヤルの訓練をしていると初めて知りました。
- ・防災への取り組みを市として行っていることを知らなかったため、知るよい機会となった
- ・ハザードMAPについて…たぶんwebで見れると思いますが
- ・避難所(一次)について具体的に話して欲しかった

4. 「みんなでトーク」について。感想や地域防災アイデア等があればご記入ください。

・地域とつながることが自助につながる。その中で身動きが取れない方、集団の場で馴染むのが難しい方たちどうつながっていくか話を進めていく必要がある

- ・多種機関の方々と話し合うことで、些細でも色んな視点で意見が挙がり、良かったです。
- ・備蓄品を再度点検を!!と思いました
- ・お話ができてよかったです
- ・薬の備蓄のこと勉強になりました。防災訓練や地域のイベントに障がい者施設等の参加が必要
- ・楽しく意見交換ができました。もっと他の意見も聞きたかったです。
- ・地域の方々に障害をもった人を知ってもらう重要性を知りました。受け身ではなく、こちらから積極的に出ていかないといけない…。とは思のですがなかなか障がいをもった人が出ていくのも難しいところもあるので、まずは管理者・事業所の職員が施設の顔となって顔を売って、自分の施設を知ってもらって、そこから少しずつつながりたーい。

- ・話し合いができて良かったです。
- ・地域の方の声が聞け、個人情報や壁はありながらも地域のつながりを意識的に作る事の大切さ、支援者・地域と連携しながら地道な活動することが大切と感じました。
- ・ありがとうございました。とても楽しく勉強になりました。
- ・直に障がい者の方と、話ができて、よかった。
- ・助けてくれとは言わず、元気でいてくれたらいいね！の障がい者の方の言葉に涙が出ました。
- ・テーブルに障がいの方がおられて、いい話(本人の声)が聞けた気がします
- ・地域でのつながりを作る事の大切さと難しさ
- ・地域の支援者の方々とグループワークができて、実際はどうか→民生委員のうごきを聞くことができた。助けたいけど、どこからしたらいいか、マニュアル化していくことがうごきやすい。そうでないと、無駄な活動になるとの意見にはっとさせられた。
- ・ボランティアをふやしていけたらいいと思いました
- ・地域のつながりについて、どうすればよいか考えていきたい
- ・地域とのつながりを持つことの大切さを学んだ。顔の見える関係構築としてより具体的な例を伺うことができ、今後の自身の活動に活かせたらと思う。(地域のお祭りの参加、自治会の災害訓練への参加など)
- ・災害が起こった時トイレと水の確保が必要。吹田市にトレーラーのトイレを購入できるように予算組みをお願いしたい。水の確保も個人では限界があるので、市として備蓄をお願いしたい、
- ・話をする
- ・①職場でつながりをもった方と避難についての意思を聞きとる。②自助について、共助について近隣住民へつなぐ。専門職は把握とつなぐことが大事なのではないかと思いました。
- ・個別避難計画について、もう少し情報を入力後配布してほしい
- ・たのしくトークできました。「顔の見えるつながりを…」と。でもマスクしてたら、分かりにくいですネ
- ・地域との顔の見える関係づくりが大事だと思います。地域のイベント等に事業所で参加して障がいを理解してもらおう。

5. 今後、地域会議(千里山・佐井寺地域)で扱ってほしいテーマがあれば、ご記入ください。

- ・防災のテーマを続けつつ、でもいいですし、防災にちなむ何か他のテーマに絡めてもいいかと思いますが、参加者に障がいのある方がたくさん出られるように呼びかけられたら、民生委員さんはじめ地域の方も関わりにくさが和らいでいくのではと思います。今日のみんなでトーク時に「障害のある方との関わりはどう接したらいいか困る」という意見があったので、気軽に挨拶しあえる場作りができたかどうかと思いました。
- ・地域の付き合い
- ・もっとたくさん、地域との関わり合いがあればいいな
- ・障がい者の集まれる場所を作ってほしい。
- ・広域にも目を広げて行ってほしい
- ・吹田市の災害時の医療について
- ・今日のグループワークでも出たんですが、「どうやって声をかけたらいいかわからない」という意見がありました。認知の人ですが、障がいの方への接し方も皆さん知りたいのかと思いました。
- ・「障がいの理解」をテーマにした研修。いつも研修等に参加して、障がいのない人の理解が足りないのを感じています。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。